

排尿日誌

月 日 ( )

起床時間：午前・午後 時 分  
就寝時間：午前・午後 時 分

メモ その日の体調など気づいたことなどがあれば記載してください。

時間	排尿 (○印)	尿量 (ml)	漏れ (○印)		
時から翌日の 時までの分をこの 1 枚に記載してください					
1 時分		ml			
2 時分		ml			
3 時分		ml			
4 時分		ml			
5 時分		ml			
6 時分		ml			
7 時分		ml			
8 時分		ml			
9 時分		ml			
10 時分		ml			
時間	排尿	尿量	漏れ		

時間	排尿 (○印)	尿量 (ml)	漏れ (○印)		
11 時分		ml			
12 時分		ml			
13 時分		ml			
14 時分		ml			
15 時分		ml			
16 時分		ml			
17 時分		ml			
18 時分		ml			
19 時分		ml			
20 時分		ml			
21 時分		ml			
22 時分		ml			
23 時分		ml			
24 時分		ml			
25 時分		ml			
時間	排尿	尿量	漏れ		
	計	ml			

翌日 \_\_ 月 \_\_ 日の  
起床時間：午前・午後 \_\_ 時 \_\_ 分

図2 排尿日誌 (日本排尿機能学会作成)

器 (図3) が種々あり、それぞれに特徴があります。最近では汎用性の高いハンディーのエコーも発売されています。それらを使用することで、患者の抵抗感も少なく下部尿路機能の評価を継続しやすくなります。また図1にあるように、カテーテル抜去後は下部尿路機能評価だけでなく、排尿行動の評価も必要です。自力もしくは介助でトイレに行けるのか、トイレまで行くことはできないがベッドサイドでポータブルトイレが使えるのか、尿器をベッド上で使えるのか、おむつやパッドが必要なのかなどを確認することも忘れないようにします。

**抜去当日のケア<sup>6)</sup>**

尿道留置カテーテル抜去後は、排尿日誌を用いながら自尿の確認 (時間と量) をします。自尿があっても、その日は排尿後に1回以上は残尿測定が必要です。本人は自尿があったと認めていても、残尿

が多量にみられることもあるからです。また、自尿があっても尿失禁がみられたら、残尿測定が必要です。また、頻尿があれば、尿検査、残尿測定、尿意があるときの蓄尿量を確認し、尿路感染がないか、萎縮膀胱の可能性がないか、確認が必要です。

食事、飲水が普通におこなわれているにもかかわらず5時間以上自尿がない場合 (点滴など実施している場合も同様)、トイレに行くことが可能な患者であればトイレへ誘導して排尿を促します。トイレに行くことができない患者は、尿意を確認し、そのときの蓄尿量が400 mL程度 (図3の機器で測定) であれば導尿をおこないます。その後も自尿がみられなければ、今までの1日の総尿量から1回の尿量が400 mL以上にならないような時間設定で、看護師による間欠導尿をおこないます。

自尿もあり、残尿、頻尿もなく、1日の尿量が1200

**A Bladder Scan® BVI6100 (ベラソンメディカル)**



短時間 (5 秒) で膀胱内尿量の測定が可能

**B リリアム® α-200 (リリアム大塚) (ユリリンの改良版)**



残尿測定も 定時測定も可能



バラつかず安定した測定が可能



**C Uscan システム (シグノスティックス)**




超音波画像を描出しながら、尿量の数値化を実現

図3 膀胱内尿量を測定できる携帯用の機器

～1500 mL程度確保されており、排尿行動も自立していれば、一応、排尿自立として経過をみます。

**翌日以降のケア**

排尿日誌は、なんらかの排尿ケアが必要な場合は継続し、排尿時間と排尿後の残尿量を記録します。高齢者の場合は残尿が100 mL以上あれば導尿が必要といわれることもありますが、原則として50 mL以上あれば導尿するのが望ましく、50 mL以下で失禁がなければ導尿を終了します。

翌日以降も残尿が多ければ、再留置ではなく、患者自身が間欠導尿をおこなえるように指導することが必要です。間欠導尿ができるためには認知

機能面 (言語の理解が可能か)、手指の機能などを評価し、可能となれば間欠導尿を指導します。自己導尿が不可能な場合は、家族など介護者に指導してもらえるかどうかを左右することもあるため、関係性の見きわめも重要です。不用意に依頼すると、結果的に適切な導尿がおこなわれずに尿路感染症などの問題を生じることもあるからです。

**夜間多尿の場合**

また、夜間多尿の患者は、尿道留置カテーテル抜去後に夜間頻尿になることもあります。そのときは夜間のみ間欠バルーンカテーテルを使用する